

廃棄物処理対策研究事業 中間評価 評価結果

研究課題名	代表研究者	総合評価	学術的 必要性	社会的 必要性	目標の 達成度	計画の 妥当性	継続 能力	補助の 必要性
バイオ技術を中心とした不法投棄現場及び不適正最終処分場の修復・再生システムの開発	北海道大学 古市 徹	50.7	47.1	54.5	50.7	46.7	54.2	51.6
(研究概要) 研究概要及びこれまでに得られた研究成果を400字以内で記入 大規模不法投棄現場の原状回復、および不適正最終処分場の適正化を図るシステム開発のために、バイオ技術を中心とした修復・再生(適正化、資源化、延命化)手法のシステム化を検討した。平成16年度は、有機物が多い昔の最終処分場の掘削した廃棄物から、エネルギー利用可能なメタンが回収できること、バイオモニタリングの重要性を明確にし、特に、遺伝子解析を用いたDXNs分解菌 <i>P. boydii</i> のモニタリング手法の開発が可能であること、オープンパス型ガス計測器により、現場の埋立ガス、有害ガスの迅速かつ簡便な測定が可能であることを示した。そして、実際の現場調査を通じて、廃棄物層内にメタンや硫化水素ガスが、高濃度で滞留する場合、ガスの発生抑制と廃棄物撤去時の作業者の安全性確保のための前処理が重要であり、物理化学技術とバイオ技術とを組み合わせた統括処理技術の開発が有効であることが分かった。								
(評価コメント) ● 現場適応(用)性についての考察が必要 ● 対策全体の中での位置づけが必要。 ● 有用であり明確な成果もあるが、実際の不法投棄現場で役に立つ技術として応用するにはあまり効果的でないように思われる(コスト、前処理にすぎない、時間的な点で) ● 不法投棄対策の前処理ではなく、本処理の一環として考えるべきではないか。 ● 実用上の見地から疑問を感じる研究である。 ● 原位置とバイオリアクターでの処理を実際にはどのように組み合わせるのか。								

注1) 総合評価等の数値は偏差値である。

注2) 評価コメントについては、研究課題代表者が、総合評価を評価者全体の評価結果として捉えた上で、すべての評価コメントの反映を目指すのではなく、各コメントの中で今後活かすべき重要な指摘や示唆が何かを吟味・判断の上、今後の研究計画の見直し等に活用することを期待する。